



第33号

栃木県書道連盟
 会員数現在 778名 豊
 会長 赤澤 豊
 〒320-0065
 宇都宮市駒生町3367-153
 TEL (028) 625-6866
 編集事務局
 振替口座 00340-3-9017
 〒329-1225
 塩谷郡高根沢町石末2857-7
 印刷 松井ビ・テ・オ・印刷

書道への理解者が必要



栃木県書道連盟

会長 赤澤 豊

平成26年度通常総会が4月5日栃木県総合文化センターにて開催され、平成25年度の事業報告、平成26年度の事業計画が承認されました。総会のあと、常任顧問の中野永峰先生による「歴史的背景に基づく書芸術観」と題した講演がありました。

だからこそ友好交流ができ、将来への懸け橋を架けたことを確信しております。この成果は会員の方々の多大なるご理解ご協力をいただいたからこそと心から感謝申し上げます。

第52回会員展は4月4日から7日まで県総合文化センターにて、作品のテーマ「3・11の記憶」が開催されました。昨年度は、特別事業の「印證西冷」西冷印社社員作品日本栃木展を1月5日から8日まで、第27回女流展と併催で新春にふさわしい事業が展開されました。

東京オリンピックが、2020年に開催されます。あと6年後です。開催までに、競技会場の整備や建設、交通関連の整備などが急ピッチで進められ、日本中が「おもてなし」の心で準備がなされることでしょう。

中国浙江省との文化交流については、かなり冷え込んでいる状態でしたが、過去の交流実績もあり、民間である当連盟

オリンピック開催中は、全世界から多くの外国人が来日し、日本の自然、名所旧跡、伝統文化にふれることでしょう。その時、書道も注目されることでしょう。書道は、日本人の心であり、人生を豊か

にしてくれます。この好機に、国として、県として文化に対する認識を高める方策がなされることでしょう。本連盟も何か対応しなければならぬと思います。

現在、書道人口は少子高齢化により逆三角形であり、また、IT化時代の進歩による文字離れや、将来を担う子ども達もは、生活環境の変化により、書道に対する興味の低下などの問題があります。

本連盟は現在、書道愛好者が入会しやすいように入会者と若い方への年会費の優遇があります。また、ホームページを開設し、本連盟の活動状況を発信しております。今後もこのホームページの内容を更に充実させるため、各地方の活動や情報を更新し、県内の連携を図り、書道の普及と振興のための検討も必要だと思います。

そして、最も重要なことは、書道への意識度、認識度をどう高め広めていけるかであり、多くの書道への理解者が必要だと思っています。

最後に、会員の皆様に本年の事業へのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。そして、ご健康とご健筆をお祈りいたします。

平成26年度 書道連盟
通常総会開催される

理事 小林 香風

平成26年度総会は4月5日(土)、栃木県総合文化センターリハーサル室において開催された。

赤澤会長の挨拶後、議長に井口秋芳氏(宇都宮)を選出し、議事に入った。

第1号議案 平成25年度事業報告及び収支決算報告 監査報告

第2号議案 平成26年度事業計画案及び収支予算案

第3号議案 平成26年度役員改選案 それぞれの議案について熱心な討議が行われ、原案通り満場一致で承認された。

新役員紹介、新事務局員の任命、地区活動報告(宇都宮・栃木)に続き、第52回会員展連盟賞受賞者の表彰が行われた。

副会長木曾梅邦先生より、「赤澤会長を中心に和の精神をもって、連盟を盛り上げて欲しい。」との退任挨拶があり、花束贈呈後、総会を終了した。

平成 26 年度 役員名簿

番号	役職名	地区名	専門部	姓 名
1	名誉顧問	大田原		酒井真沙
2	常任顧問	芳賀		重原聖鳥
3	常任顧問	宇都宮		中野永峰
4	常任顧問	塩谷		鈴木源泉
5	常任顧問	矢板		柿沼翠流
6	顧問	宇都宮		久津美碧洋
7	(新)顧問	宇都宮		木曾梅邦
8	参与	宇都宮		生田目史雲
9	参与	宇都宮		高梨峰鶴
10	参与	那須塩原		津久井悠山
11	参与	栃木市		高際翠邦
12	参与	日光		人見翠苑
13	参与	宇都宮		荒井雅子
14	参与	小山		上野鶴陽
15	参与	宇都宮		斎藤美与子
16	参与	栃木		石川善克
17	参与	栃木		腰塚藤翠
18	参与	佐野		勅使川原素山
19	参与	宇都宮		諏訪公道
20	参与	宇都宮		中山志峰
21	参与	上三川		小久保汗顔
22	参与	宇都宮		谷古宇栖洞
23	参与	芳賀		刑部素心
24	参与	宇都宮		大谷津紫水
25	参与	足利		市川両僊
26	参与	宇都宮		山田雅子
27	参与	宇都宮		吉田竹溪
28	参与	栃木		田中暁亭
29	参与	日光		早乙女晃楓
30	参与	さくら		鈴木正倫
31	参与	さくら		井澤桂秋
32	参与	下都賀		高橋瑞峰
33	参与	足利		漆原常石
34	参与	塩谷		鶴見芳花
35	参与	塩谷		阿久津天舞
36	参与	佐野		中村廬山
37	(新)参与	鹿沼		兼目悠久
38	(新)参与	大田原		長嶋石城
39	(新)参与	下野		生沼冬情
40	(新)参与	芳賀		小林正韻
41	(新)参与	下野		伊澤小園
42	会長	宇都宮		赤澤 豊
43	副会長	宇都宮		松本宜響
44	副会長	下野		大浦舟人
45	(新)副会長	大田原		村田幽香
46	常任理事	塩谷	事務局長	五江洵霊水
47	常任理事	宇都宮	総務部長	村松太子
48	常任理事	足利	書展部長	関口鶴情
49	常任理事	宇都宮	研修部長	中原睦美
50	常任理事	宇都宮	総務部担当	癸生川天遊
51	常任理事	鹿沼	研修部担当	塚原秀巖
52	(新)常任理事	塩谷	書展部担当	斉藤一吼
53	理事	宇都宮	書展部	安藤磨紀
54	理事	宇都宮	総務部副部長	澤田 寛

番号	役職名	地区名	専門部	姓 名
55	理事	宇都宮	総務部	日賀野琢
56	理事	宇都宮	書展部	大類天鶴
57	理事	宇都宮	研修部副部長	櫻井敬朔
58	理事	宇都宮	総務部	下司香雪
59	理事	宇都宮	事務局次長	篠崎無閑
60	理事	宇都宮	研修部	井上都洞
61	理事	宇都宮	研修部	萩野谷香華
62	理事	宇都宮	事務局次長	橋本竹泉
63	理事	宇都宮	研修部	星 司光
64	(新)理事	宇都宮	総務部	鶴見晨蒲
65	理事	足利	書展部副部長	阿部祥廬
66	理事	足利	総務部	上村千嶂
67	理事	栃木	総務部副部長	川島汀蒲
68	理事	栃木	研修部	小林香風
69	理事	栃木	研修部	嶋田周
70	理事	栃木	書展部	白井薫苑
71	理事	栃木	書展部	小林桂華
72	理事	佐野	総務部	森田桂石
73	理事	佐野	研修部	柳田昂雲
74	理事	鹿沼	書展部	渡辺司寶
75	理事	日光	書展部	皆川桂花
76	理事	日光	研修部副部長	石戸松波
77	理事	小山	総務部	倉持玄風
78	理事	小山	事務局員	松本純美代
79	(新)理事	真岡	事務局員	大塚雅恵
80	理事	大田原	書展部副部長	酒井導子
81	(新)理事	大田原	事務局会計	益子宵林
82	理事	矢板	研修部	磯 翠茗
83	理事	那須塩原	書展部	高橋金舟
84	理事	那須塩原	書展部	笹沼映子
85	理事	さくら	書展部	小森聖子
86	理事	那須烏山	研修部	斎藤裕一
87	(新)理事	下野	研修部	井上幸枝
88	(新)理事	上三川	総務部	小形則江
89	(新)理事	芳賀	書展部	大畑耕雲
90	理事	下都賀	総務部	竹澤久子
91	理事	塩谷	研修部	加藤榮舟
92	(新)理事	塩谷	書展部	山本紅葉
93	監事	宇都宮		細小路洸玉
94	監事	那須塩原		大場山東

事務局

番号	役職名	地区名	姓 名
1	常任理事	塩谷	(新)事務局長 五江洵霊水
2	理事	宇都宮	事務局次長 篠崎無閑
3	理事	宇都宮	(新)事務局次長 橋本竹泉
4	理事	大田原	(新)事務局会計 益子宵林
5	理事	小山	事務局員 松本純美代
6	理事	真岡	(新)事務局員 大塚雅恵
7		宇都宮	事務局員 山本響花
8		大田原	事務局員 横田蘭花
9		下野	事務局員 柏崎麗泉
10		芳賀	事務局員 菅俣青洋
11		下野	事務局員 鈴木蓮径
12		真岡	事務局員 柳澤水聲
13		小山	(新)事務局員 坂本典子

各部の方針と活動内容

総務部

部長 村松 太子

総務部の今年のメンバーは、部長・村松太子、常任理事総務担当癸生川天遊、副部长・澤田寛、川島汀蒲、部員・上村千嶂、小形則江、倉持玄風、下司香雪、竹澤久子、鶴見晨蒲、日賀野琢、森田桂石の12名です。

書を愛好し、学び続けていたい人達が集う本連盟は書を通して香り高い文化向上の一助となる活動が続けて今回に至っています。

組織として、総会、会報発行、県展入選・入賞者の集い、高校生顕彰、若手育成のための取り組み等の役割を総務部としては担い、それらをメンバー一丸となつて業務に努めています。

明るく、楽しい栃木県書道連盟であり続けるよう総務部から発信していくことが今年度の方針です。

会員の皆様のご協力、ご支援を研修部・書展部同様によりしくお願い申し上げます。

研修部

部長 中原 睦美

研修部の主な目標は、研修を通して、会員の書活動をより豊かなものにしていくことにあると思います。そのためには、①有意義な研修を行うこと、②会員相互の親睦を図ることに努力し活動してまいります。

本年度は新メンバーでのスタートとなります。部員は、部長・中原睦美、副部长・櫻井敬朔、石戸松波、常任理事で研修部担当の塚原秀巖、部員・井上都洞、萩野谷香華、星司光、小林香風、嶋田周、柳田昂雲、磯翠茗、斎藤裕一、井上幸枝、加藤榮舟の14名です。

活動内容

一、実技講習会（本年度中止）

二、研修旅行

◇とき 平成26年10月13日（月）

◇方面 群馬県上毛三碑方面、前橋文学館

※行程表は20ページ参照



多胡碑

三、講演会

◇とき 平成27年4月25日（土）

15時～16時30分

◇ところ 総合文化センター

リハーサル室

書展部

部長 関口 鶴情

新メンバー15人が心をひとつにして26年度行事に取組みます。部会においても活発な意見がたくさんありました。主に女流展と会員展の充実に向けて、出品者の増加と魅力ある運営に力を結集していきます。部員に限らず、連盟会員各位のご指導、ご支援をよりしくお願い致します。

◆行事予定

◎第28回女流展

◇とき 平成27年1月24日（土）

～27日（火）

◇ところ 総合文化センター

第4ギャラリ

◎第53回会員展

◇とき 平成27年4月24日（金）

～27日（月）

◇ところ 総合文化センター

第3・4ギャラリ

※右二つの書展を有意義な書展にして参りたいと思います。搬入・展示・搬出は会員の皆様のご協力をよりしくお願い申し上げます。



平成26年度

第52回栃木県書道連盟会員展

Ⅲ 3・11の記憶Ⅱ

理事 酒井 導子

した。

第52回栃木県書道連盟会員展が4月4日(金)～7日(月)に栃木県総合文化センター第3・第4ギャラリーにおいて開催されました。

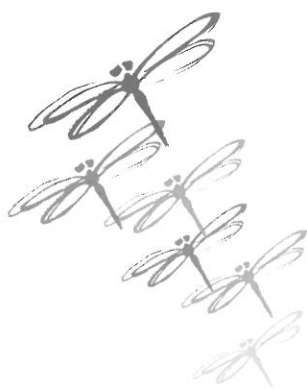
本年の会員展は東日本大震災、福島第一原発事故から3年、本県でも地区によりかなりの被害があり、県北では今だに放射能被害と戦っています。そんな中、作品を通して復興への願いを届けたいと、異例の事ですが「3・11の記憶」という統一テーマを設けました。

359人が出品し犠牲者への鎮魂、被災者への励まし、3・11当日の体験、明るい未来を求める気持ち等さまざまな思いが個々の作品からあふれ、見応えのある展覧会になりました。

連盟賞は会長・副会長、4名の先生による選考で次の方々が受賞しま

○穂山玉星氏(小山)「忘れえぬ日」
○萩野谷聡美氏(宇都宮)「春よ来い」
○平松芳華氏(宇都宮)「底力」

最後に搬入、陳列、受付、撤去等ご協力、ご尽力いただきました会員の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。



《会場風景》



第52回栃木県書道連盟会員展

真摯な気持ちで

穂山 玉星

「底力」に込めた思い

平松 芳華

「思い新たに」

萩野谷聡美

「3・11の記憶」のテーマを目にし、仮名文字で当時の事を伝え表す事はとても難しく暗い気持ちのままに時が過ぎ、やっと文の構想を練り始めて、何事もなく生き長らえる事の幸せ、震災、津波、汚染で住む事の出来ない場所、失われた家、家族の命の事を思うと、悲しみが増し心が暗然として暫く書き表すことが出来ず、どうにか書き終えたその現状を表す作品に、思いがけない賞をいただきました。今後も真摯な気持ちで、書が続けて参ります。改めて深く心に刻む良い機会を与えて下さった先生方、お忙しい中、審査に携わられた先生方には大変お世話になりました。有り難うございます。

今回の連盟展のテーマ、「3・11」。それで「底力」を選びました。

あの大震災の直後、入院、股関節置換手術という試練に直面。大震災の復興と、書への復帰とが重なり、何より欲しかったのは、「底力」。

そう思い、書き始めたものの、思うように筆が進まず、この題を選んだ事を後悔しました。でも、うまくいかないと思いつつも、あがきながら書き続けました。それも、ある意味「底力」かと。この作品は、納得いかなくても、後に続けば、と観念し、それで肩の力が抜けたのかも知れません。

連盟賞の連絡には、驚きました。御指導いただきました中野先生、審査員の先生方、事務局の先生方、本当にお世話になり、感謝の念でいっぱいです。

この度は、連盟賞という大変名誉な賞をいただき、まことにありがとうございます。審査にあたりました会長をはじめ先生方、ご指導くださいました先生方に深くお礼を申し上げます。

今回の連盟展の作品作りにあたり、「震災を想う」テーマと決まったときすぐに、この「春よ来い」を書きたいと思いました。震災の在った年の紅白歌合戦でこの曲が歌われたことにとても感動を覚え、いつか作品にしてみたいと思っていました。やさしいけれども力強い春、こんな曲のイメージを作品に込められるよう、暖かい茶墨を使つて書きました。今回のこの受賞を大変うれしく思うと同時に、この賞に恥じぬよう、思い新たに、精進してまいりたいと思います。この度は本当にありがとうございました。



萩野谷聡美



平松 芳華



穂山 玉星

平成26年度栃木県書道連盟 講演会

参与 兼目 悠久

日時 平成26年4月5日(土)
午後3時～4時30分

会場 栃木県総合文化センター
リハーサル室

講師 宇都宮大学名誉教授
県書道連盟常任顧問

中野 永峰先生

演題 「歴史的背景に基づく
書芸術観」

中野先生は演題に基づき、A古書論、B書芸術観、C中国・日本書道史の講演内容のレジュメを用意下さり、講演を進めて下さった。

A、古書論について

(1) 後漢(約2000年前)の許慎は、著書の「説文解字」の序文で、「書は如なり」と述べている。「書は人の如きなり」の事で、書には書いた人の人間性が如実に表現されるという意味である。

(2) 後漢の蔡邕(132～192)は「書は散なり。書せんと欲すれば先ず懷抱を散ぜよ。」と論ずる。散とは心を発散させる事で、何らのわだかまりやとらわれもなく、一心に書

かなければ、たとえ良筆を使っても、良い書は出来ないと云うのである。

(3) 王羲之(307～365)は「書は用筆を貴ぶ。学書の第一要件は用筆法の習得であれ。」と論じている。用筆とは毛筆の弾力と開閉の技法、遅速、緩急、リズム等の呼吸の事である。

(4) 北宋の黄山谷(1045～1105)は「書は沈厚を貴ぶ。つまり沈勁(深く強い)にして敦厚(念入り)であればと言う。

(5) 清朝の王虚舟(1668～1739)は「書の本質は沈勁たれ。」と説く。沈勁とは旺盛なる気力を筆端に集中し、沈着に勁く、紙背に深く透入せよ。これが用筆の根本と言う。沈勁ができるとこなれて剛に偏せず、自由自在に筆が活躍し千変万化する。

B、書芸術観について

比田井天来(1872～1939)は自己流の字ばかり書いて、個性に甘んじていたら、直ぐに習気が出て死物になる。自己の個性を陶冶してこそ、自己が発揮されると説く。

中野永峰先生は「人間の、深い精神風景の書を、宇宙性、自然性、空氣性、透明性、象徴性、普遍性の書を理念とするのである。生涯新しい書を生み出して行きたい。」と結ばれている。

中野先生のご講演は、A古書論、B書芸術観共に19項目をお示し下さった。紙面に限りもあり、ご講演の幾つかを記させていただいた。深い内容の魅力に満ちたご講演の90分間はあつという間に過ぎた。



平成25年度研修旅行

東北への一泊研修に参加して

参与 小林 正韻

平成25年度会員研修は、東北地方復興支援&国内研修旅行ということで、10月5日(土)・6日(日)の一泊二日の日程で開催された。一泊での研修は暫くぶりのことで、参加者40名、内女性が約半数の18名と一際和やかに、そして賑やかな研修旅行であった。

5日の朝は、県南の佐野、鹿沼と巡り宇都宮駅東で全員が揃い、予定より10分早く7時50分に出発。

赤澤会長、関口研修部長、添乗員の成田さんから朝のあいさつがあり、朝食のおにぎり等が配られ、東北道を一路会津へと向かう。

第一の研修地「八重の桜」で知られた会津藩校「日新館」に到着。直ちに集合写真を撮り、館内を順次見学をする。

NHKの大河ドラマ「八重の桜」を漏らさず観ていた私には実に興味深いところであった。

昼食は会津の「ピアレストラン」で喉しめしのビールも出されご満悦。

和気藹々の食事も済み、それぞれ

近くにある「世界のガラス館」等を見学、買い物をする。

再びバスで移動して「野口英世記念館」へ。館内は自由行動でゆっくりと見学することができた。十数年前訪れたころとは大きく違っていて、施設や案内の方法等が良くなっている。驚いた。

午後1時30分に会津を出て、バスは山形県鶴岡の夕日の美しいという湯野浜温泉へと向かう。生憎天候が悪化、雨が降り出し眺望のきかない雨のハイウェイ峠越えとなる。

夕日の名所湯野浜温泉「ホテル華夕美」に着いたのは、予定より1時間遅れの5時45分。日も暮れ又雨で、残念ながら夕日を見ることはできなかった。(この日の「日の入り」は5時17分)

お楽しみみの夕食と懇親大宴会は、囲炉裏端風食事で、生沼冬情先生の司会進行で進められ、アルコールも入り皆さん本領発揮。カラオケタイムでは、のど自慢の皆さんが続々。時間を30分オーバーしての楽しい宴となった。

朝早く目を覚ますと、いつもの風景と違った海を眺め旅情に耽る。

8時30分にホテルを出て二日目の研修が始まる。先ず、小雨振る出羽三山神社では一部修理中で足場のかかる神社で参拝と散策をする。

そして山を越え谷を越え、一路太平洋側、いわき小名浜へと向かう。バスの中では、磯翠若先生による「中国文明の展開」や藤原行成筆の解説などの勉強会、クイズ、お楽しみ抽選会などが行われ、また、カラオケもあり和やかなバスの中でした。

昼食予定の「美食ホテル」に着いたのは1時間半遅れて、午後2時になつてしまう。食事後は近くの魚介類市場で復興支援の買い物と称して、皆さん大いに買い込まれる。

次の観光「塩屋の岬」への車窓から、建物の土台基礎石だけ残して草野原になっているあたり一面を見て、震災、津波の凄さは、想像を絶するものであったと窺える。

美空ひばりの「みだれ髪」の歌碑のところで集合写真を撮る。

宇都宮到着も大いに遅れて7時20分着となったが、それでも今回の2日間の研修は、日本海から太平洋側とハードな旅で、各々大いに思い出の多い良い研修であったと思う。関係者の皆さんに感謝します。



県書道連盟実技講習会

理事 上村 千嶂

平成25年11月17日(日) 栃木県青年会館コンセーレにおいて約80名の参加者を得て実技講習会が行われました。昨年度に続く2回目で、常任理事6名の先生を講師とし各班に分かれ、書体をテーマとし講習が行われました。

A班 篆書……村松大子常任理事
B班 隷書……関口鶴情常任理事
C班 楷書……中原睦美常任理事
D班 行書……五江渕霊水常任理事
E班 かな……塚原秀厳常任理事
F班 漢字かな交じりの書……

癸生川天遊常任理事

各先生の講習内容は個性ある内容で、講師の見本揮毫に魅せられ、さらに受講者の臨書実習・添削と、各班に割り当てられた受講者も新鮮な内容に真剣に耳を傾け、一字一句も漏らさないようにと、楽しみながらメモを取っていました。各班で講習形式が違っていましたが、各班を巡回して聞き入っていると、なるほど、と言う連続で、全ての講習を聞きたいと思いました。

受講者の書体内容を選べられない事にした事もあり受講者には書体内容に難解の事もあった方も見受けられました。各書体を会得する良いきっかけになったと思います。またベテランの方々には初心に戻れさらに基礎を大切にする事を思われたと思います。一通りの座学が終わった班では、次々に講師の揮毫が如まり受講者の溜息と真剣なまなざしを受けながら、緊張感たつぷりな書きぶりを楽しませて頂きました。中でも大字の篆書・隷書等の間近での揮毫に受講者は大満足していた様子で、後ろから見ていた私にも受講者の満足感を感じました。各先生方の伝えたい『心で書く』基本の筆使いの気持ちを受講者に伝わった事を実感致しました。

講習会後は、講師の先生方との交流会を行い講習会参加者もくつろぎながら充実した一日を過ごしました。

24年度の講習会にましてさらに進化した講習であった事に満足を感じ、さらに次回の講習にも期待がかかります。平成26年度はどんな講習が開かれるか? またテーマは? と今から気にかかる実技講習会でした。

最後に、今回の各先生方のテーマに向けた講習準備・開催に対し改め

て感謝を申し上げます。大変お疲れ様でした。



《実技講習会風景》



第67回栃木県芸術祭書道展

— 審査総評 —

審査委員長 松 本 宜 響

第67回栃木県芸術祭美術部門の審査は平成25年10月28日、栃木県総合文化センターに於いて慎重かつ公正におこなわれた。公募展の審査は、その結果を通して審査員が審査されることでもあると私は常々考えている。日展や中央の公募展において問題が指摘されているが、本県に於いての県展の審査結果は如何であったか、皆さんのご意見を伺うのが楽しみではある。当番審査員は荒井雅子、磯翠茗、木曾梅邦、倉持玄風、中原睦美、村松太子、松本宜響の7名であった。

審査当日は9時より入念に日程・審査方法の打ち合わせが行われ、それにしたがって午前中鑑別審査、そして昼食後入賞審査が行われた。入選数は公募総数345点の70%、240点前後の展示を目安に行った。その結果、入選数243点、入選率70・4%となった。

各ジャンルの出品数・入選率は次の通りである。

ジャンル	応募数	入選数	%
漢字多字数	219点	154点	70・3%
漢字少字数	34点	24点	70・6%
漢字仮名交り	33点	24点	70・7%
仮名	24点	17点	70・8%
篆刻	35点	24点	68・6%

審査員の総評をまとめてみる

○ベテランの熟達した作品から若さの溢れるものまで多様な出品がみられた。

○年々作品の質は向上していると思うが特に傑出した作品が少ないように思われる。

○公募点数が33点減少しているのが気にかかる。

○入賞作品はいずれも日ごろの精進の結果がよく反映されていた。また気魄のこもった若く澁澁とした作もあって、頼もしく感じられる。今回の収穫のひとつである。

○漢字作品について言えば更にもう一步踏み込んだより象徴的な作品制作・表現が欲しかった。

入賞作品

芸術祭賞 腰塚 藤翠

「めぐりあいて」

古歌二首を華やかに且つ流麗におさめた。緩急とリズム感のあふれる優作である。

準芸術祭賞 鈴木 蓮徑

「菜根譚より」

書線 結体ともに練度を極め高い力量が伺える快作である。

準芸術祭賞 篠崎 無閑

「光彩陸離」

清々しい墨色で、輝きまぶしい様子の句義を具現化した快作である。

奨励賞

小野崎啓太 「心」

神長 雪華 「九日」

石川 瑤花 「初夏即事」

渡邊 司寶 「白木蓮」

豊田 右歸 「弧掌豈能鳴」

山口 子晴 「芳樹」

橋本 竹泉 「早発白帝城」

北村のぞみ 「循牆而走 風解」

平松 芳華 「終南山」

鶴見 晨蒲 「情深潭水」



芸術祭賞 腰塚 藤翠

第67回栃木県芸術祭書道展 入選・入賞者の集い

理事 澤田 寛

栃木県書道連盟主催「栃木県芸術祭書道部門 入選・入賞者の集い」は、平成25年11月9日(日)午後4時から、ホテルニューイタヤにて開催されました。

来賓に、栃木県文化協会副会長 安久津和夫様、同 事務局長 柿田由起雄様、(株)下野新聞社販売事業局長 赤坂信行様、同 販売事業部長 長谷川浩様、宇台額縁専門製作所様、金指表具店様、書遊松島堂様、桐葉堂様の8名をお迎えし、入選・入賞者と合わせて183名の参加者で開催されました。来賓の方々から心のもった祝辞を賜り、続いて審査委員長の松本宜響先生からは慈愛あふれる講評を頂きました。

入選・入賞をされた方々から難関をくぐり抜けての喜びにあふれた挨拶があり、祝宴となりました。

宴の間には初出品初入選の方々の紹介や、生花の贈呈などもあり、会場内は祝賀の雰囲気包まれました。

明日への新たな書の新進を胸に、帰路につきました。

栃木県書道連盟女流展

理事 石戸 松波

第27回栃木県書道連盟女流展は、中国の「西冷印社」篆刻創作研究室による作品展と併せて、県総合文化センター第3、第4ギャラリーにて、1月5日(日)～8日(水)まで開催されました。

福田富一知事が出席した開幕式で同研究室の余正室長は、県と中国浙江省が友好提携20周年を迎え、両国の増々の友好交流の象徴となると挨拶されました。中国側91点、女流展では196点が展示されました。講評会は5日(日)1時より、木曾梅邦前副会長が行いました。祝賀会はイタヤにて渡辺文雄様他御来賓をお迎えして、日中交流を深め、和やかな会が催されました。

〔講評文要約〕 敬称略

- 荒川 實穂 穂先きき、魅力ある線
- 井上 幸枝 きびしさ、豊かさあり
- 加藤 栄舟 現代表現がマッチ
- 神山 紫香 力強さあり、余白を考慮
- 見目 月華 やわらかさ、骨力あり安心作

- 小池 天綏 かな線のすばらしさ追求している
- 齋藤 洋子 自分の持味表現している
- 佐久間香月 呼吸の連続性あり
- 清水 柳絮 手なれた筆使い、明るい作
- 鈴木 涼香 穂先のきいたつく線がよい
- 鈴木 瑤舟 明るさ、筆勢ある
- 須永 茜潮 縦画良く力強さあり
- 竹澤 久子 優美さ、余裕あり
- 塚原 彩香 造形安定、厳しさ強さあり
- 西脇 紫竹 緊張感、統一感あり
- 信沢 静江 暖かみ、豊かな線がよい
- 橋本 聖舟 明るさ動き、一貫性ある
- 林 遊李 文字のひびき味わいあり
- 花塚 香陽 造形、墨、無から有の世界表現
- 平石 春水 自分で工夫している
- 平松 芳華 渴筆生かし力ある
- 牧野 春峰 穂先に力あり、豊かな線
- 八木澤翠葉 動きあり、さわやか
- 山口 子晴 淡墨の強弱、立体性ある
- 山崎 秋月 運筆、呼吸さわやか

- 山田 香邨 上下の表現がよい
- 山田 雅子 素晴らしい作
- 和賀 幸恵 骨力あり、まとまりある
- 脇田 啓子 豊かさあり、側、直を入れる
- 渡辺 温芳 構成よく明るい

《講評会風景》



西冷印社社員作品展

副会長 大浦 舟人

西冷印社は一九〇四年に創設された書学・印学研究の学術団体で、今年がちょうど百十周年目にあたる。

その「印證西冷・西冷印社社員作品日本栃木展」が、1月5日（日）から8日（水）の4日間、栃木県総合文化センター第四ギャラリーA・Bにて開催された。第27回女流展の一部とは同じフロアでの競演となり、正月の雰囲気が一層華やぐものとなった。

展示された作品を見てみよう。まず目を引くのが入口を飾る印屏六幅。これは昨年杭州で催された創立百十周年記念事業の際に展示されたもので、西冷印社社員らの作品群が各々側款の拓を添え整然とまとめられている。そして、日本人4人を含む社員らの篆刻作品80点、書作品20点が巧妙な配置によって広く見渡せる会場をぐるりと囲むように飾る。栃木県側からも会長と常任顧問4名の書が賛助作品として添えられた。

作品の大きさであるが、画仙紙半切を中心としたため、私たちの目を通すとやや小ぶりの感じがするかもしれない。しかし、その一つ一つを具に鑑賞すれば、そこは一衣帯水。印という方寸の小宇宙にちりばめた漢字造形の妙、巧みな刀法、装丁に対する意匠、そして書の文化を身近な存在として愛好する姿勢というのが見えてくる。学べきものは少なくない。

今回の展示でもう一つ注目を集めたのが、会場の中央、二つのガラスのケースに納められた良質な印材二十六顆。陳列責任者の陳墨氏が編集出版した図版「西溪流韻」はこれらの作品が美しい写真で紹介されていて、その前言とあと書きによれば、これらは歴代の詩人が杭州市郊外にある西溪という景勝地に遊んで詠った詩句を西冷印社の友人たちの協力を得て刻したものがある。会場で陳墨氏に直接訊ねたところでは、印材

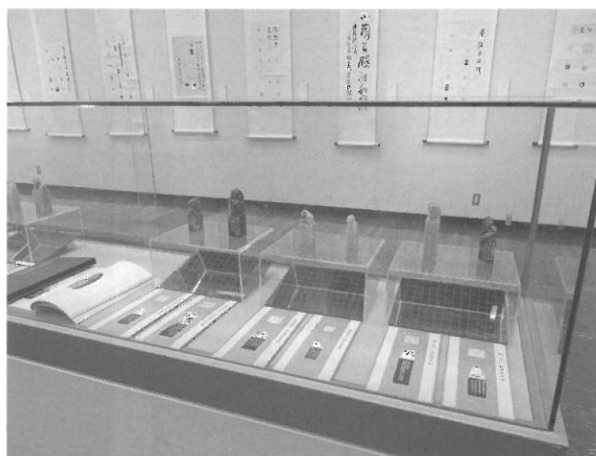
はすべてある収集家のものだという。どれをとつても掌にて愛しむべき銘石ばかりであった。

さて、栃木県書道連盟と西冷印社との交流の歴史は、一九九二年に余正、呉瑩、李仁華の3人の先生方が来県し講習会を開催した時まで遡る。二〇〇九年に杭州市西湖美術館での中国展を皮切りに両省県で開催された「栃木県・浙江省書法友好交流展」が記憶に新しいが、その間を含め、これまでの書道交流には西冷印社に関係する先生方の地道な尽力があったことを私たちは忘れてはならないと思う。

書道に限ったこととはいえ、今日の時期にこのような大きな日中交流を果たせたことは、西冷印社ばかりでなく栃木県書道連盟にとっても、時代を通暁する高い視点と広い視野がなければできない大きな成果であったということができよう。

これからも書道を通じた交流が易わることがないことを願ってやまない。

《会場風景》



印證西冷―西冷印社社員作品 日本栃木展開幕式

理事 橋本 竹泉

去る平成 26 年 1 月 5 日、栃木県総合文化センターに於いて、厳かに開催されました。

開幕式に先立ち、栃木県文化協会副会長の安久都和夫様の謡曲「鶴亀」により開幕に花を添えました。

引き続き癸生川総務部長の司会により開会し、福田富一栃木県知事の来賓祝辞をいただきました。「ようこそ栃木県においてくださいました。心から歓迎申し上げます。」知事は出初式のいでたちで多忙のなかおいで下されました。また、「本展覧会の企画運営に際して栃木県書道連盟および西冷印社の皆様方のご尽力に敬意を表します。」とのご祝辞をいただきました。

開幕式は、テープカットへと進み、福田知事、余正先生、赤澤豊会長などにより、厳粛に挙行されました。

県知事に西冷印社社長より作品の贈呈がありました。知事室に早速飾るとのことでした。

村田事務局長がご来賓のご紹介をしました。

続いて主催者のご挨拶で、栃木

県書道連盟赤澤会長から挨拶がありました。「西冷印社の皆様には栃木県においていただき熱烈歓迎します。日本栃木展が開催できたことは永く歴史に残り記念すべきことです。」と挨拶がありました。

続いて余正先生のご挨拶がありました。「栃木展に熱烈のお祝いを申し上げます。栃木県書道連盟との協力によりできた展覧会です。書道交流には特別の意味があり、長く交流することを確信します。誠にありがとうございます。とご挨拶がありました。

以上で開幕式が終了し、日本栃木展に移行しました。



テープカット風景

第27回栃木県書道連盟女流展・ 印證西冷―西冷印社社員作品 日本栃木展祝賀会

常任理事 村松 太子

新春の光のなかで街並みも新しい表情の 1 月 5 日（日）ホテルニューイタヤ本館 3 階天平の間で賑賑しく女流展と西冷印社社員作品日本栃木展の祝賀会が開催された。

余正先生の講演を午後 3 時半に終了し、4 時半より 6 時半の楽しく豊かな 2 時間はあつという間だった。

開会の言葉を大浦星齋副会長が、主催者挨拶を赤澤豊会長と呉瑩西冷印社理事が、西冷印社社員並びに来賓紹介を松本宜響副会長が、来賓祝辞を栃木県国際交流協会顧問渡辺文雄様と下野新聞社長代理販売事業局長赤坂信行様が、そして乾杯の音頭を栃木県国際交流協会理事長入内澤滋夫様が執り行ない、祝宴に入った。

西冷印社関係 13 名通訳 4 名来賓 6 名栃木県書道連盟会員 100 名の合計 123 名の大宴会となり大いに盛り上がった。

余興として、映像による西冷印社社員詳細紹介を松本副会長が楽しくして下さり、中国の方々の理解を参加者は深められた。中国女流と日本

女流の作品交換会や記念品贈呈式も行なわれ、日中の溝を埋めることができた。

閉会の言葉を松本副会長が行ない余韻冷めやらぬおももちで終了した。

《作品交換会》



〈小山市書道連盟〉

事務局 松本純美代

小山市書道連盟は結成して今年で 29 年目となります。現在、小山市文化協会登録の 9 団体を中心として 84 名の会員がおります。

本年は全会員による総会を 5 月 17 日に行い、これからの活動の指針についての意見交換をし、積極的な話し合いがありました。

本連盟の主な行事である小山市書道連盟展は 6 月 20 日(金)～22 日(日)まで道の駅思川・評定館において開催いたしました。出品者 57 名それぞれの日頃の習練をベースにおいた作品は墨色鮮やかな少字数から、2×8 尺の多字数の作品とバラエティに富んだ展覧会となりました。85 才の会員の熊倉孤石さんの蘭亭序の全臨は特に注目を集めた作品の一つでした。作品展示を通して会員相互が書に関して感想を述べ合う貴重な機会となりました。

例年開催される小山市市民文化祭の書道展は 11 月 26 日(水)～30 日(日)まで開催予定です。地域の文化振興の一翼を担うべく、会員が積極的に参加しております。会員各自が力作を展示できるように制作に取り組んでおりますので、ご高覧いただき、

ご指導を賜りたいと存じます。



〈下野市書道連盟〉

通常総会・講話会を開催

飯野 彩心

皐月晴れの 5 月 11 日(日)、下野市書道連盟の通常総会・講話会を開催。市長代理の板橋昭二副市長・池澤勤下野市教育委員会教育長・海老原富美男下野市文化協会会長ご臨席のもと総会が滞りなく行われた後、栃木県書道連盟常任理事の村松太子先生を講師に迎え、講話会を開催。「顔法に触れよう」と題し、顔真卿をテーマに実技を交えながらご指導をいた

だいた。講話会の終盤では、村松先生の席上揮毫を拝見し、臨書から創作へのポイントと作品制作のコツ等を学び、大変有意義な講演会となった。

また、当連盟の大きな行事である下野市書道連盟展の第 7 回展を、9 月 12 日(金)から 14 日(日)までグリムの館で開催する。今年は「高校生による書道パフォーマンス」を 9 月 14 日(日)午前中に実施する予定。ぜひ、ご高覧お願い申し上げます。



〈鹿沼地区書道連盟〉

第十三回 鹿沼市書道連盟展

理事 渡邊 司寶

鹿沼市書道連盟は、平成 12 年(2000 年) 4 月に、市内書道愛好家により、会員 74 名で発足しました。平成 14 年 3 月に、第 1 回鹿沼市書道連盟展が開催され、以後、毎年開催を続け、今年は、3 月末に、第 13 回展を盛況裏に開催することが出来ました。

第 13 回展では、市文化活動交流館を会場とし、篆刻 7 点を含め、計 78 点を展示。漢字・かな・大字書などさまざまな作品が並び、題材も俳句



や漢詩、テレビドラマの主題歌「雨のち晴レルヤ」の歌詞等、変化に富んだ作品群でした。

毎年3月の展覧会には、出品を樂しみにしてくれる人達も出てきて、嬉しい限りです。

今後とも地域文化向上のため、書道を通じて活動をしていきたいと思っています。

〈日光市書道連盟〉

会長 皆川 桂花

日光市は平成18年3月に5つの市町村が合併し、県内きつての広域さ、それに反して人口密度の低い市として誕生しました。日光市書道連盟はこの合併を機に発足し、年一度の会員展活動为契机に相互親睦を図っております。「明るく、仲良く、助け合って、高め合おう」のモットーのもと現在会員数、10会派42名の団体となっております。

今年度の会員展会期は、9月25日から28日まで、少し小さめですがレトロな雰囲気の日光市杉並木公園ギャラリーに、会員の作品に加え、各指導者の教室より18歳未満の生徒作品1点ずつを展示、未来の書道人の育成も試みております。

平成28年度には創立10周年を迎え



ます。何か心に残るイベントを企画すべく案を練っております。

〈市貝町書道連盟〉

会長 大畑 耕雲

市貝町書道連盟は毎年1月には町と共催による小中学生を対象とした書き初め大会を実施しております。

作品は書道連盟会員が審査し優秀作品には町長賞、教育長賞、奨励賞として表彰しております。作品は後日全員の作品を庁舎ロビーに展示します。近年中学生の参加が少ないのが残念ですが書道塾の先生方が日頃熱心に指導されているのですばらし

い作品ばかりです。市貝町書道連盟会員の展示は秋の町民祭、芳賀地方芸術祭、2月には連盟会員展を行う予定です。それから本会の事業には研修会を実施しております。今年には本会の顧問で栃木県書道連盟の参与である刑部素心先生に実技と講話をお願い致しました。町外の方の参加も歓迎です。今後の書道に生かす有意義な研修会になると思います。

市貝町書道連盟はこれからも会員相互の親睦を深め書道文化の普及活動につとめて参りたいと思います。

大畑耕雲作 武者絵



― 出羽三山にて ―



― 塩谷崎灯台にて ―

月別各地区催し物案内

展 覧 会 名 称	会 期	会 場	責 任 者
小山市書道連盟展	H26.6.20(金)～ 6.22(日)	道の駅、思川・評定館	倉持玄風
第 37 回高根沢町書道連盟展	H26.7.3(木)～ 7.6(日)	高根沢町歴史民俗資料館	鈴木源泉
公募第 4 5 回東日本書展	H26.7.11(木)～ 7.14(月)	栃木県総合文化センター	木曾梅邦
竹心会書展	H26.7.25(金)～ 7.27(日)	宇都宮市立南図書館	竹澤久子
栃木県小中学校教職員書展	H26.8.22(金)～ 8.24(日)	栃木県総合文化センター	関澤 淳
第 1 0 回グループ「005」 W の会『記念書展』	H26.8.28(木)～ 8.31(日)	栃木県総合文化センター	村田幽香
第 4 9 回素心社書展	H26.8.28(木)～ 8.31(日)	栃木県総合文化センター	澤田 寛
下野市書道連盟展	H26.9.12(金)～ 9.14(日) 9.14(日) 10:30～11:30	下野市グリの館 書道パフォーマンス	飯野彩心
日光市書道連盟展	H26.9.25(木)～ 9.28(日)	杉並木ギャラリー	皆川桂花
佐野市民文化祭書道展	H26.10.4(土)～ 10.5(日) 10.5(日) 14:00～15:00	佐野市文化会館展示室 席上揮毫(大竹汎泉氏)	森田桂石
第 2 5 回さくら市 書道連盟展	H26.10.16(木)～ 10.19(日)	道の駅きつれがわ内さくら市 総合交流ターミナル展示室	鈴木正倫
第 50 回上三川町文化祭書道展	H26.10.17(金)～ 10.19(日)	上三川町体育センター	星野碧山
第 36 回鹿沼市民文化祭書道展	H26.11.1(金)～ 11.3(日)	鹿沼市文化活動交流館	板橋寿鶴
第 12 回大田原市書道書道展	H26.11.14(金)～ 11.16(日)	那須野が原ハーモニーホール	長嶋石城
栃木市、栃木文化祭書道展	H26.11.21(金)～ 11.23(日)	栃木市栃木文化会館	大塚昌峰
芳賀地方芸術祭ギャラリー展	H26.11.25(火)～ 11.30(日)	市貝町農業者トレーニングセンター	
第 4 2 回清明書展	H27.1.16(金)～ 1.18(日)	栃木県総合文化センター	中野永峰
第 4 2 回鹿沼市民書初展	H27.1.14(水)～ 1.18(日)	鹿沼市民文化センター	渡邊司寶
茂木町書道連盟会員展	H27.1.27(火)～ 2.6(木)	茂木町・道の駅	矢野弓翠
市貝町書道連盟会員展	H27.2 月	市貝町庁舎ロビー	大畑耕雲
第 14 回鹿沼市書道連盟展	H27.3.13(金)～ 3.15(日)	鹿沼市民文化センター	兼目悠久
県南書人展	H27.3.19(木)～ 3.22(日)	栃木市栃木文化会館	倉持玄風
日光書道連盟展	H27.3 中旬	日光郷土センター	石戸松波
芳賀町書道連盟会員展	未定	芳賀町情報館	小林芳邨

第45回 展 (2013)
第66回 毎日書道展 (2014)
第31回 読売書法展 (2014)

中央書壇で
活躍する連盟会員

理事 日賀野 琢

昨年の第45回日展開幕と同時に、その審査の在り方等々が新聞報道され、中央書壇に激震が走った。事実無根の内容もあったが、現在は改革案が綿密に検討され、新しい体制で再スタートが切られるはずである。いつの時代でも芸術における優秀の審査には明確な客観的方法がない。我が県内の書道界では、幹部先生方の共通理解により、常に「審査員は審査されている」という襟を正した空気が流れているので安心だ。

一方明るい話題が舞い込んだ。次代を担う50歳未満の書家を顕彰する第17回国井誠海賞に赤澤寧生氏(39・創玄書道会)が選ばれた。中央と県内を繋ぐ架け橋的存在として益々のご活躍を祈念申し上げたい。

また本年4月、全国規模の書道関係団体6団体(賛同団体も6団体)が結束し、「書写・書道教育推進協

議会」が発足、国の関係機関に対して小中学校の毛筆書写教育の一層の充実、高校の芸術科書道教育の充実を求める要望書を提出した。その実現に向けて50万人目標の署名活動が展開されている。9月には文部科学大臣と中央教育審議会会長あて提出される予定である。

6月下旬から東京国立博物館にて『台北國立故宮博物院・神品至宝』が開催。書家垂涎の文物が国内で鑑賞できる絶好の機会となる。

* * *

ここでは、昨年の第45回日展とあわせて、本年開催されたばかりの第66回毎日書道展、第31回読売書法展の概況を紹介します。

第45回日展

六本木・国立新美術館に会場を移して7回目の日展。10,229点の応募に対し、入選974点、入選率は0・95%の超厳選。栃木県勢は昨年比1名減の8名入選。部門別の内訳は漢字4・篆刻4。左のように「新入選」が2名誕生したことは本県書道界の明るい話題になった。

【新入選】

(※日展では、初めて入選したものを、過去入選経験者と区別し「新入選」と呼んでいる。)

○神長雪華氏

「晚意」(漢字)

晚色微茫至前山次第昏羸牛蹄徑
遠宿鳥傍欄初盤喜黃梁熟杯餘白
酒渾田家雞醢薄得難離塵堂

○福岡俊介氏

「李太白詩・酬崔侍御」(漢字)

夢寐不覺覺
夢寐不覺覺
夢寐不覺覺
夢寐不覺覺
夢寐不覺覺
夢寐不覺覺
夢寐不覺覺
夢寐不覺覺
夢寐不覺覺
夢寐不覺覺

【入選】(五十音順)

○安藤磨紀氏

「雪泥鴻爪」(篆刻)

○磯 翠茗氏

「鑄人懷」(篆刻)

○大竹汎泉氏

「明清古詩選四首」(漢字)

○嶋田 周氏

「道遠知驥」(篆刻)

○鈴木源泉氏

「魏徵詩」(漢字)

○福富玲茜氏

「悵望千秋」(篆刻)

【出品委嘱】

○日賀野琢

「蘇頌詩」(漢字)

第66回 毎日書道展

【毎日賞】氏家 真鴻 (漢字Ⅱ類)

川島 汀蒲 (漢字Ⅱ類)

小野崎 啓太 (漢字Ⅱ類)

岩淵 響泉 (漢字Ⅰ類)

田島 春光 (かなⅠ類)

伊東 ひろ子 (かなⅡ類)

齋藤 寶統 (近代詩文書)

相田 蘆山 (近代詩文書)

福田 紗季 (篆刻)

宗田 常江 (刻字)

第31回 読売書法展

●読売奨励賞△評議員対象▽

【漢字部】吉田 典生 (宇都宮市)

清水 柳絮 (小山市)

神長 雪華 (矢板市)

●特選 (公募会友対象)

【漢字部】渡辺 静村 (矢板市)

平石 春水 (さくら市)

【かな部】芹澤 翠蘭 (小山市)

【調和体】阿部 陽子 (宇都宮市)

●秀逸 (公募会友対象)

【漢字部】荒川 光谿 (宇都宮市)

野地 翔田 (宇都宮市)

山下 睦未 (宇都宮市)

栗原 梅香 (栃木市)

塚田 朴風 (栃木市)

山崎 翠雲 (栃木市)

忍田 青堂 (日光市)

八木澤 翠葉 (日光市)

清水 白楊 (小山市)

岩崎 有良 (さくら市)

皆川 憲子 (宇都宮市)

佐藤 貞子 (大田原市)

小林 美喜子 (那須塩原市)

庭田 露舟 (佐野市)

小島 玉華 (宇都宮市)

【篆刻部】

【調和体】

平成 25 年度 収支決算書

〔収入の部〕 (単位：円)

項 目	本年度決算額	本年度予算額	増 減	摘 要
1. 会費	4,077,500	4,012,500	65,000	5000円×795口、2500円×41口
2. 会費展	401,000	400,000	1,000	1000円×401名
3. 交流展	294,000	300,000	△6,000	1500円×196名
4. 雑収入その他	80,183	90,000	△9,817	利子、グッズ等
5. 連盟基金より	700,000	0	700,000	
6. 前年度繰越金	1,276,461	1,276,461	0	
合 計	6,829,144	6,078,961	750,183	

〔支出の部〕

項 目	本年度決算額	本年度予算額	増 減	摘 要
1. 総会費	106,631	150,000	△43,369	会場費、看板代等
2. 展覧会費	1,252,929	1,120,000	132,929	
会費展	761,197	770,000	△8,803	26年度会場費、25年度諸経費等
交流展	491,732	350,000	141,732	26年度会場費
3. 会議費	929,421	870,000	59,421	
顧問・参与会	32,800	50,000	△17,200	1回
正副会長会	123,112	70,000	53,112	15回
常任理事会	105,811	100,000	5,811	9回
理事会	242,506	250,000	△7,494	6回
専門部会など	425,192	400,000	25,192	総務、研修、書展各部会、会議費
4. 国際書道交流費	941,628	500,000	441,628	浙江省友好交流関係等
5. 研修費	303,836	350,000	△46,164	
講演会	80,000	100,000	△20,000	講師謝金、会場費等
実技講習会	103,040	150,000	△46,960	講師謝金、会場費等
研修旅行	120,796	100,000	20,796	福島、山形方面研修関係等
6. 地区活動費	83,657	100,000	△16,343	
7. 通信・印刷費	1,091,507	1,400,000	△308,493	
通信費	604,167	700,000	△95,833	送料、通信費等
印刷費	487,340	700,000	△212,660	会報、行事案内等
8. 渉外・運営費	803,977	800,000	3,977	高校生観戦、若手意見交換会、慶弔費等
9. 事務局費	638,462	630,000	8,462	
消耗品費	188,227	150,000	38,227	事務用品等
事務運営費	450,235	480,000	△29,765	事務関係諸費
10. 予備費	0	158,961	△158,961	
11. 連盟基金	0	0	0	含寄附金
合 計	6,152,048	6,078,961	73,087	

収入決算額	6,829,144	◎ 連盟基金残高	532,017
支出決算額	6,152,048	〔内訳〕 前年度繰越金	1,231,790
差 引 額	677,096	一般会計に繰り入れ	△700,000
※ 次年度繰越金	677,096	利 子	227

上記の通り決算報告致します。

栃木県書道連盟会長 赤澤 豊
事務局会計 下司 香雪

会 計 監 査 報 告

平成25年度 栃木県書道連盟 収入支出の決算について、4月2日に
監査した結果、使途、決算書、証拠等適正であることを認めます。

平成26年4月5日



平成 26 年度 収支予算書

〔収入の部〕 (単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1. 会費	3,750,000	4,012,500	△262,500	5000円×730口、2500円×40口
2. 会費展	345,000	400,000	△55,000	1000円×345名
3. 交流展	300,000	300,000	0	1500円×200名
4. 雑収入その他	90,000	90,000	0	グッズ等
5. 前年度繰越金	677,096	1,276,461	△599,365	
合 計	5,162,096	6,078,961	△916,865	

〔支出の部〕

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1. 総会費	150,000	150,000	0	会場費等
2. 展覧会費	1,120,000	1,120,000	0	
会費展	770,000	770,000	0	27年度会場費、26年度諸経費等
交流展	350,000	350,000	0	27年度会場費
3. 会議費	820,000	870,000	△50,000	
顧問・参与会	50,000	50,000	0	1回
正副会長会	70,000	70,000	0	6回
常任理事会	100,000	100,000	0	9回
理事会	250,000	250,000	0	6回
専門部会など	350,000	400,000	△50,000	総務、研修、書展各部会等会議費
4. 国際書道交流費	100,000	500,000	△400,000	
5. 研修費	310,000	350,000	△40,000	
講演会	100,000	100,000	0	講師謝金、会場費等
実技講習会	110,000	150,000	△40,000	講師謝金、会場費等
研修旅行	100,000	100,000	0	
6. 地区活動費	1,000	100,000	△99,000	
7. 通信・印刷費	1,200,000	1,400,000	△200,000	
通信費	650,000	700,000	△50,000	各種行事案内、送料、通信費等
印刷費	550,000	700,000	△150,000	会報、各種行事案内等
8. 渉外・運営費	770,000	800,000	△30,000	高校生観戦、慶弔費、関係団体負担費等
9. 事務局費	630,000	630,000	0	
消耗品費	150,000	150,000	0	事務用品等
事務運営費	480,000	480,000	0	事務関係諸費
10. 予備費	61,096	158,961	△97,865	
11. 連盟基金	0	0	0	
合 計	5,162,096	6,078,961	△916,865	

収入予算額	5,162,096
支出予算額	5,162,096
差 引 額	0

◎ 連盟基金残高 532,017

平成 25 年度事業報告について

総務部	総会 出席者：163名	25年4月28日(日)	会場：栃木県総合文化センター・リハール室 時間：13:00～14:30 進行：澤田寛(宇都宮) 議長：柴田聖風(宇都宮) 書記：日賀野琢(宇都宮) 竹澤久子(壬生) 議事録署名人：森田桂石(佐野)倉持玄風(小山) 会場：ホテルニューイタヤ 受付：17:00 開宴：17:30 会費：6000円 進行：安藤磨紀 参加者：104名
	懇親会		会場：ホテルニューイタヤ 受付：17:00 開宴：17:30 会費：6000円 進行：安藤磨紀 参加者：104名
	若手会員との意見交換会	5月18日(土)	会場：ホテル丸治 時間：15:00～16:40 参加者：35名 対象：40歳代までの会員と正副会長、常任理事 3グループで意見交換、全体会で代表による発表 懇親会(立食パーティ)：17:00 ホテル丸治 会費：1,000円
	会報(32号)発行 A4版 20頁 1300部	9月1日(土)	第51回会員展、連盟各種行事、地区だより、地区別催し物案内
	栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者のつどい	11月9日(土)	会場：ホテルニューイタヤ 時間：受付15:30 開宴16:00 会費6,000円 参加者：173名(補足) 会期：平成25年11月2日(土)～11月12日(火) 会場：栃木県総合文化センター 招待者：栃木県文化協会(副会長・事務局長) 下野新聞社(販売事業局長) 業者 (同日批評会・ワークショップ担当 五江渕壺水：文化協会への協力)
	書文化の普及と若手育成のための取り組み	10月中旬～2月	高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」 県内高等学校への案内送付：10月 推薦者申請締切・賞状の準備：11月 審査決定：1/12 結果通知：1月 表彰状、額発送：2/5 申請者：12校、21名(昨年9校13名) 表彰者：12校21名
研修部	印証西冷-西冷印社社員作品日本栃木展開幕式	26年1月5日 9:30～10:10	開闭幕式(来賓：県知事、県文化協会副会長、県国際交流協会顧問、下野新聞社販売事業局長) 役員53名 一般参加 約30名
	講演会	4月28日(日)	会場：栃木県総合文化センター・リハール室 時間：15:00～16:30 演題：「浙江省の書状況」-浙江省友好交流のために- 講師：副会長 松本宜響
	研修旅行	10月5日(土)～6日(日)1泊2日	演題：「書道と健康法」 講師：中村廬山 福島方面：震災復興支援と研修 宿泊地：山形、湯野浜温泉 参加者：40名 参加費：35,000円見学地：福島(日新館)、山形(羽黒山出羽三山神社)等
書展部	実技講習会	11月17日(日)	会場：コンセーレ(栃木県青年会館) 講師：常任理事6名 内容：模範揮毫、作品制作、添削指導 参加者：約80名 (書道用具、半紙道具各自持参) 時間：14:00～17:00 懇親会17:30～19:30 会費：4000円
	第51回会員展	5月3日(金)～6日(月)	会場：栃木県総合文化センター第1・2・3・4(ABC)ギャラリー 出品料：1000円 出品点数：406点 審査員：正副会長(4名) 連盟賞：荒井雅子、下司香雪、松本純美代
	記念イベント 席上揮毫	5月6日(月)	◇席上揮毫 揮毫者：日賀野琢、櫻井敬朔 会場：第4ギャラリー 時間：10:00～12:00
その他	ギャラリートーク パネラー：会長、副会長(4人)		◇会員展連盟賞表彰式並びにギャラリートーク 会場：第4ギャラリー 時間：13:00～15:00
	第27回女流展	26年1月5日(日)～8日(水)	会場：栃木県総合文化センター 第1・3・4ギャラリー-C 1/4(土)展示飾り付け 出品点数：196点 講評会参加 30名 1/5(日)10:40～11:30 講評会 講師：木曾梅邦副会長
	印証西冷-西冷印社社員作品日本栃木展 協力：篆刻関係者	26年1月5日(日)～8日(水)	栃木県総合文化センター 第4ABギャラリー 篆刻：60 書：20 日本：5点 1/4(土)展示飾り付け 1/5(日)講演会13:30～15:30 講師：余正先生 会場：ホテルニューイタヤ 参加者：124名 印証西冷展・第27回女流展祝賀会16:30～18:30 参加：123名
その他	ホームページ開設	25年4月30日(火)	トピックス・各種行事・展覧会案内等随時更新中 アクセス数：15480

○各種会議実施記録

会議	顧問参与会	1回	4/22(日)
	正副会長会	15回	印証西冷展関係、関連書展等の会議
	常任理事会	9回	5/10(日)、6/2(日)、9/15(日)、11/22(日)、12/1(日)、26年1/12(日)、1/26(日)、3/9(日)、3/23(日)
	理事会	6回	6/2(日)、9/15(日)、12/1(日)、2/9(日)、3/9(日)、3/23(日)
	専門部会		総務部 多数回、研修部 3回、書展部 3回
	印証西冷実行委員会	5回	5/26(日)、6/23(日)、10/14(月)、12/13(金)、1/17(金)
	監査		26年4/2(水)
	事務局会議		多数回実施

平成 26 年度事業計画

総務部	総会	26年4月5日(土)	会場：栃木県総合文化センター・リハール室 時間 13:00～14:30 進行：安藤磨紀(宇都宮) 議長：井口秋芳(宇都宮) 書記：日賀野琢(宇都宮)、竹澤久子(壬生町) 議事録署名人：森田桂石(佐野)、倉持玄風(小山)
	懇親会	4月5日(土)	会場：ホテルニューイタヤ 受付：17:00 開宴：17:30 会費：6,000円 進行：澤田 寛 参加者：90名
	会報(33号)発行	9月1日(月)	A4版 20頁 1300部 第52回会員展、連盟各種行事 印證西冷展、地区だより、地区別催し物案内等
	栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者のつどい	11月9日(日)	会場：ホテルニューイタヤ 時間：受付15:30 開宴16:00 会費6,000円 (補足) 会期：平成26年11月1日(土)～11月11日(火) 会場：栃木県総合文化センター 招待者：栃木県文化協会(副会長・事務局長) 下野新聞社(販売事業局長) 業者 予定 (同日批評会・ワークショップ：嶋田 周、文化協会への協力)
	書文化の普及と若手育成のための取り組み	10月中旬～2月	高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」 県内高等学校への案内送付：10月 推薦者申請締切・賞状の準備：11月 審査決定：1月 結果通知：1月 表彰状、額発送：2月 若手育成のための検討
研修部	講演会	4月5日(土)	会場：栃木県総合文化センター・リハール室 時間：15:00～16:30 演題：「歴史的背景に基づく 書芸術観」 講師：宇都宮大学名誉教授・常任顧問 中野 永峰 先生
	実技講習会	9月23日(火) (秋分の日)	会場：コンセーレ(栃木県青年会館) 講師：日賀野 琢 先生 内容：『書作のヒントー臨書を楽しむ!』 時間：14:00～17:00 懇親会17:30～19:30 会費：4000円
	研修旅行	10月13日(月) (体育の日)	群馬県上毛三碑方面 見学地：多胡碑、記念館等 参加費：10,000円以内
書展部	第52回会員展	4月4日(金)～ 7日(月)	会場：栃木県総合文化センター第3・4(ABC)ギャラリー 搬入：4月3日(木) 出品料：1000円 作品テーマ：『3.11の記憶』 規格：仕上がり寸法 A タテ 170cm×ヨコ 55cm以内(縦横自由) B タテ 90cm×ヨコ 90cm以内 C 篆刻 タテ 39cm×ヨコ 30cm 連盟賞：3点(賞状・副賞) 審査員：正副会長(4名)
	第28回女流展	27年1月24日(土) ～27日(火)	会場：栃木県総合文化センター 第4ギャラリー(ABC) 1/24(土)展示飾り付け9:00～12:00 1/25(日)講評会 13:00～15:00 講師：村田幽香先生 懇親会 16:30～18:30 ホテル丸治 会費：5000円
その他			

軸装不可

研修旅行について

平成 26 年 10 月 13 日 (月・祝日) に群馬県方面、日本三大古碑の一つ多胡碑 (実物が鑑賞できます) を中心に研修旅行を企画しました。是非多数のご参加をお待ちしております。

月日	曜日	行 程 表
10 13	(月・祝)	矢板駅東口 ———— JR 宇都宮駅東口 ———— 北犬飼コミュニティセンター ———— 7:00 8:00 8:30
		<東北道・北関東道> <北関東道・関越道> 鹿沼 IC ———— 佐野田沼 IC ———— 道の駅たぬま (乗車) ———— 佐野田沼 IC ———— 9:00
		道・上信越道> 前橋 IC ———— 前橋文学館 (見学) ———— 高崎市内 (昼食) ———— 10:00~11:00 11:30~12:30
		多胡碑・多胡碑記念館 (見学) ———— 山上碑 (見学) ———— 金井沢碑 (見学) ———— 13:00~14:00 14:30~15:30
		藤岡 IC ———— 佐野田沼 IC ———— 道の駅田沼 ———— 佐野田沼 IC ———— 鹿沼 IC 17:30頃
		——— 北犬飼コミュニティセンター ———— JR 宇都宮駅東口 ———— 矢板駅東口 18:00 18:30頃 19:30

事務局より

事務局長 五江 潤 霊水

役員改選により新体制で始動

県書道連盟の通常総会が 4 月 5 日県総合文化センターリハーサル室にて開催され、木曾梅邦先生が新顧問に就任されました。会長赤澤豊、留任。新副会長に村田幽香、副会長松本宜響、大浦星齋、留任。新事務局長に五江潤霊水、新常任理事に斎藤一吼、新参与に伊澤小園、生沼冬情、兼目悠久、小林正韻、長嶋石城先生が就任されました。

他は 2 ページ平成 26 年度役員名簿一覧表をご参照下さい。

お知らせ

○栃木県書道連盟ホームページが会員の皆様に新情報を提供するためにリニューアルされています。ご覧下さい。

○入会手続きが栃木県書道連盟ホームページから簡単にできるようになりました。ご利用下さい。

○DM 用住所ラベルを連盟後援団体に五千円にて提供しています。(後援申請提出が必要になります。後援申請用紙もホームページからダウンロード出来ます。)

○平成 26 年度実技講習会が講師、日賀野琢先生の体調不良のため中止となりました。

お願い

○年会費が未納のままになっている方はお早めにお願います。

○住所・連絡先など変更事項がある場合は事務局 (五江潤) までお知らせ下さい。

お悔やみ

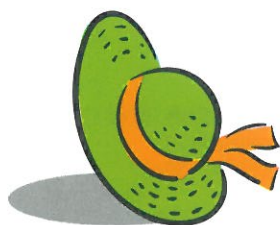
参与・大塚清岳様 (宇都宮市)

参与・入江真海様 (鹿沼市)

参与・丸山暁鶴様 (栃木市)

会員・文挾香山様 (日光市)

事務局にご連絡を頂戴した方のみ掲載いたしました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



◆本連盟副会長 松本宜響先生による講演会

日時 平成 26 年 9 月 29 日 (月)
午後 2 時から 5 時
場所 宇都宮市文化会館小ホール



編集後記

穏やかで自然災害の少ない栃木県生鹿沼地区を、この夏、竜巻が襲った。その瞬間真っ黒な雲が湧いて流れたそうである。『今までに経験のないような・・・』という言葉を、今年は沢山聞いた。

会報が発行される 9 月には、どうか爽やかな風が流れ、美しい秋が愉しめますように！